

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	卓尼チベット語完冒・地古多 ['Oggangdrug] 方言における動詞語幹の形態論
Auther(s)	鈴木, 博之
Citation	ニダバ , 45 : 31 - 38
Issue Date	2016-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045561
Right	
Relation	



卓尼チベット語完冒・地古多['Oggangdrug]方言 における動詞語幹の形態論

鈴木 博 之

1 はじめに

本稿では、中国甘肅省甘南 [Kan-lho] 藏族自治州卓尼 [Co-ne] 県完冒 [Wa-dmar] 郷地古多 ['Og-sgang-drug] 村で話される卓尼チベット語'Oggangdrug 方言における動詞語幹の形態変化を記述する。その際、母音の長短が当該形態変化に大きくかかわっていることを示す。

rNam-rgyal Tshe-brtan (2008) による卓尼県のチベット語の方言分類によると、完冒郷はアムドチベット語の分布地域とされている。実際同郷の大半ではアムドチベット語が用いられているが、南東部に位置する地古多、下路 [sPyang-lung]、康本車 [mKhar-mo-che]、同栄 [Thang-rtsa]、嘎夏 [sGang-skya] の各村では卓尼チベット語（方言分類については鈴木 (2015) を参照）の方言が用いられている。これと非常に近い方言関係にある変種は完冒郷に東接する臨潭 [sBra-'tsher] 県の江加河、亦子多 [gYu-'brug-mdo] の2村にも分布している。本稿で記述するのは地古多村の変種で、'Oggangdrug 方言と呼ぶ。

全般的に見て、チベット系諸言語には動詞語幹の形態変化が何らかの形で顕在化する言語が多い。チベット文語（以下「藏文」）では4種（伝統的に過去、現在、未来、命令と呼ばれる）の形態が規定されている。口語に認められる動詞語幹の形態変化は基本的に藏文と対応するが、大部分は簡略化されており、たとえば現在と未来は多くの方言で合流している。一方でいくつかのアムドチベット語では、藏文には規定されないような形式が特に命令形に現れるといった現象があり、文語との対応関係は一様でない。卓尼チベット語では、アムドチベット語と比べれば際立ってはいないが、形態変化の存在する動詞語幹は少なくない。ただし、若年層ではもはやほとんどの動詞語幹で形態変化を行わない話者も存在する。本稿では'Oggangdrug 方言の青年層（20代）の発音をもとに、その動詞形態変化の記述を提示する。語彙収集時には華侃 主編 (2002) を使用した。動詞の記述に先立ち、'Oggangdrug 方言の音体系を提示する。

2 'Oggangdrug 方言の音体系

ここでは'Oggangdrug 方言の音体系について、超分節音、母音、子音、音節構造に分けて簡潔に紹介する。

3 'Oggangdrug 方言における動詞語幹の形態変化：実例の整理

ここでは、'Oggangdrug 方言に共時的に認められる動詞語幹の形態変化を、具体例を挙げながら対立項および音形式のパターン別に整理する。このとき、超分節音については分類の際に考慮しない。

以下、対立項が2項、3項、4項のものに分けて記述する。語形式に続いて[†]が付加されている例は、命令形を欠くものであることを意味する。形態変化が認められない例については記述を割愛する。

3.1 2項の対立

3.1.1 非過去 - 過去/命令

音節全体の異なり

語義 \ 対立項	非過去	過去/命令
耕す	ⁿ dɕ	^{-h} tɕi:
ほじくる/切り出す	ⁿ dɕu	^{-h} tɕi:
描く	ⁿ dɕə	ʔi:
尋ねる	ⁿ dɕə	ʔi:
書く	ⁿ dɕə	⁻ tɕi:
逃げる	ⁿ dɕo	ʔe:
裁断する	ⁿ dɕe:	ʔe:
捉える	⁻ⁿ dzi:	^h zuŋ
ほおぼる	⁻ⁿ dzə	^h zoŋ
さえぎる	^{-ŋ} ga:	^{-h} kəu

初頭子音の異なり

異なりのパターンを右端の欄に記す。

語義 \ 対立項	非過去	過去/命令	異なり
つむぐ	^{-ŋ} k ^h ɛ:	^{-h} kɛ:	^ŋ k ^h - ^h k
導く	^{-ŋ} tɕ ^h i:	^{-h} tɕi:	^ŋ tɕ ^h - ^h tɕ
抜く	^m bɛ:	ʔpɛ:	^m b - p
払い戻す	^h zɿ	^h ɕɿ	^h z - ^h ɕ
読む	⁻ⁿ dā	⁻ tā	ⁿ d - t
急ぐ	⁻ⁿ de:	^{-h} te:	ⁿ d - ^h t
重ねる	⁻ⁿ dou	^{-h} tou	ⁿ d - ^h t
入れる	⁻ⁿ do:	^{-h} to:	ⁿ d - ^h t
剃る	ⁿ de:	^{-h} te:	ⁿ d - ^h t
[茶を] 入れる	ⁿ də	^{-h} tə	ⁿ d - ^h t

語義 \ 対立項	非過去	過去/命令	異なり
[草を] 刈る	[˦] dɑ:	[˦] tɑ:	[˦] d - [˦] t
掘り起こす	[˦] goʋ	[˦] koʋ	[˦] g - [˦] t
ひっかける/背負う	[˦] ge:	[˦] ke:	[˦] g - k
隠す	[˦] go:	[˦] ko:	[˦] g - [˦] k
曲げる	[˦] guʋ	[˦] kuʋ	[˦] g - [˦] k
身につける	[˦] da:	[˦] ta:	[˦] d - [˦] t
壊して開ける	[˦] ge:	[˦] ke:	[˦] g - [˦] k
賭ける	[˦] dʒẽ [˦] gu:	[˦] dʒẽ ˦ku:	[˦] g - k

母音の異なり

このパターンは非常に例が多く、母音の量（長短）のみの異なり、質（舌位置）のみの異なり、末子音と母音の長短の交替という異なり、質・量の異なりに分けて記述する。また、異なりのパターンを右端の欄に記す。

母音の量（長短）のみの異なり

語義 \ 対立項	非過去	過去/命令	異なり
する	[˦] ci	[˦] ci:	i - i:
ちぎる	[˦] tʃe	[˦] tʃe:	e - e:
開墾する	[˦] dzo	[˦] dzo:	o - o:

質（舌位置）のみの異なり

語義 \ 対立項	非過去	過去/命令	異なり
殴る	[˦] tʃ ^h ɑ:	[˦] tʃ ^h ɛ:	ɑ: - ɛ:
囲い込む	[˦] du:	[˦] di:	u: - i:
唇を軽く閉じる	[˦] tsuʋ	[˦] tsɔŋ	u - o

末子音と母音の長短の交替

語義 \ 対立項	非過去	過去/命令	異なり
つき砕く	[˦] dzouʋ	[˦] dzɔ:	ouʋ - ɔ:
切り分ける	[˦] tsɔw	[˦] tsɔ:	ɔw - ɔ:
始める	[˦] go [˦] dzouʋ	[˦] go [˦] tsu:	uʋ - u:
搔く	[˦] t ^h uʋ	[˦] t ^h u:	uʋ - u:

質・量の異なり

語義 \ 対立項	非過去	過去/命令	異なり
踏む	[˦] dʒɔ	[˦] dʒi:	ɔ - i:

語義 \ 対立項	非過去	過去/命令	異なり
ねじる	^{-h} ɕə	^{-h} ɕi:	ə - i:
[帯を] 締める	^{-h} tɕə	^{-h} tɕi:	ə - i:
[お金を] 借りる	^{-h} ɕə	^{-h} ɕi:	ə - i:
数える	^{-h} tsə	^{-h} tsi:	ə - i:
縫い目を解く	^{-h} ʂəu	^{-h} ʂi:	əu - i:
剥ぐ	^{-h} ɕu	^{-h} ɕi:	u - i:
穴に通す	^{-h} dʒu	^{-h} dʒi:	u - i:
[薪を] 拾う	^{-h} t ^h u	^{-h} t ^h i:	u - i:
塗る	^{-h} ku	^{-h} ki:	u - i:
泣く	^{-h} ŋu	^{-h} ŋi:	u - i:
溶かす	^{-h} z ^h u	^{-h} z ^h i:	u - i:
吸う	^{-h} nu	^{-h} ni:	u - i:
盗む	^{-h} ku	^{-h} ki:	u - i:
洗う	^{-h} tɕu	^{-h} tɕi:	u - i:
消化する	^{-h} z ^h u	^{-h} z ^h i:	u - i:
迎える	^{-h} su	^{-h} si:	u - i:
放牧する	^{-h} ts ^h o	^{-h} ts ^h e:	o - e:
分かち合う	^{-h} go	^{-h} ge:	o - e:
炒める	^{-h} ŋo	^{-h} ŋe:	o - e:
耕す/呪う	^{-h} mo	^{-h} me:	o - e:
煮る	^{-h} tso	^{-h} tse:	o - e:
火であぶる	^{-h} so	^{-h} se:	o - e:
支える/育てる	^{-h} so	^{-h} se:	o - e:
搾る	^{-h} zo	^{-h} ze:	o - e:
掘る	^{-h} ko	^{-h} ke:	o - e:
買う	^{-h} no	^{-h} ne:	o - e:
伝染する	^{-h} go	^{-h} ge:†	o - e:
編む	^{-h} la	^{-h} le:	a - e:
雇う	^{-h} la	^{-h} le:	a - e:
見る	^{-h} ta	^{-h} te:	a - e:
食べる	^{-h} sa	^{-h} se:	a - e:
ほとばしる	^{-h} ɕe:	^{-h} ɕā†	ɛ: - ā
引っ張り上げる	^{-h} lɛ	^{-h} la:	ɛ - a:
射る	^{-h} p ^h ɛ	^{-h} p ^h a:	ɛ - a:
歌う	^{-h} lā	^{-h} la:	ā - a:
投げる	^{-h} p ^h ā	^{-h} p ^h a:	ā - a:
つなぐ	^{-h} t ^h i:	^{-h} t ^h ə	i: - ə
しびれる	^{-h} ri:	^{-h} rā†	i: - ə

3.1.2 非現在 - 現在/命令

語義 \ 対立項	非現在	現在/命令
折る	^{-h} tɕɑ:	^{-h} tɕəu
誓う	^{-fi} na ^{-h} ɕi:	^{-fi} na ^{-h} ɕi†

3.1.3 現在 - 非現在/命令

このタイプはいずれも母音の異なりが認められる。

語義 \ 対立項	現在	非現在/命令	異なり
掃く	^{-fi} ɕ ^h ɑ	^{-fi} ɕ ^h ɑ:	ɑ - ɑ:
傷つける	^{-h} tɕɑ	^{-h} tɕɑ:	ɑ - ɑ:
瞬きする	^{-fi} do	^{-fi} do:	o - o:
破壊させる	^{-h} nu	^{-h} nu:	u - u:
切り倒す	^{-h} tɕe	^{-h} tɕe:	e - e:
[人と] 交わる	^{-h} tə	^{-fi} ɕi:	ə - i:
口づけする	^{-k^h} a ^{-h} ɕə	^{-k^h} a ^{-h} ɕi:	ə - i:
飲み込む	^{-fi} nə	^{-fi} ni:	ə - i:
脱臼する	^{-h} ə	^{-h} i:	ə - i:
積み重ねる	^{-h} tsə	^{-h} tsɑ:	ə - ɑ:
ふるいにかける	^{-h} tɕə	^{-h} tɕə:	ə - ə:
出会う	^{-t^h} u	^{-t^h} u:†	u - u:
盛る	^{-fi} lu	^{-fi} luu	u - uu
破壊する	^{-h} ɕəu	^{-h} ɕi:	əu - i:

3.2 3項の対立

3.2.1 非過去 - 過去 - 命令

このタイプはいずれも補充法による。

語義 \ 対立項	非過去	過去	命令
行く	⁻ⁿ dzo	^{-h} pe:	^{-s^h} o:
来る	^{-j} o:	^{-p} u:	^{-ɕ^h} ou

3.2.2 未来 - 現在 - 過去/命令

語義 \ 対立項	未来	現在	過去/命令
吊るす	^{-fi} da:	^{-fi} da	^{-h} ta:
穴があく	^{-m} be:	^{-m} buu	^{-h} pe:†

語義 \ 対立項	未来	現在	過去/命令
吹く	^{-m} bi:	^{-m} buuɥ	^{-h} pi:
詰め物をする	^{-fi} di:	^{-fi} də	^{-h} ti:
挙げる	^{-fi} dzɑ:	^{-fi} dzə	^{-h} tɕɑ:
暖める	^{-fi} dzə	^{-fi} zə	^{-fi} zi:
かじる	⁻ⁿ dɕɛ:	⁻ⁿ dɕə	^{-h} tɕɛ:
敷く	^{-fi} di:	^{-fi} də	^{-h} ti:
させる	⁻ⁿ dzɯ:	⁻ⁿ dzɯɥ	^{-h} tɕɯ:
収穫する	⁻ⁿ dɑ:	⁻ⁿ dɑ	^{-h} tɑ:
結びつける	⁻ⁿ da:	⁻ⁿ da	^{-h} ta:
押す	⁻ⁿ de:	⁻ⁿ de	^{-h} te:
引きずる	⁻ⁿ dʒi:	⁻ⁿ dʒə	^{-h} tʃi:
吸い込む	⁻ⁿ dʒi:	⁻ⁿ dʒə	⁻ⁿ dzɯɥ
燻製にする	^{-fi} duɥ	^{-fi} dɯ	^{-fi} du:
超える	^{-m} bi:	^{-m} buɥ	⁻ pi:
栽培する/刺す	⁻ⁿ dzɯɥ	⁻ⁿ dzɯ	^{-h} tsɯɥ
[種を]まく	⁻ⁿ dɔw	⁻ⁿ dɔ	^{-h} tɔw
願う	^{-h} me lɔŋ ^{-fi} dɔw	^{-h} me lɔŋ ^{-fi} dɔ	^{-h} me lɔŋ ^{-h} tɔ:
穴をあける	^{-m} bu:	^{-m} bu	^{-h} pi:
混乱する	^{-h} tɯɥ	^{-h} tɯ	^{-h} tɯ:

3.3 4 項の対立

語義 \ 対立項	未来	現在	過去	命令
穴を開ける	^{-m} buɥ	^{-m} buɥ	⁻ pu:	⁻ pi:

4 'Oggangdrug 方言における動詞語幹の形態変化：考察

3 節で記述した動詞語幹の形態変化について、以下にその特徴に関する考察を進める。

4.1 形態変化の対立項

'Oggangdrug 方言における動詞の形態変化について最も多く認められるのが 2 項対立であり、その中で最も多いのが非過去と過去/命令の間で形態に異なりが認められるタイプである。このタイプにおいて、非過去とは蔵文における現在、未来 2 つのカテゴリーをまとめた名称で、該当する動詞が表す動作が完了していない場合に用いられる。これに対し蔵文の過去と命令 2 つのカテゴリーもまとまっており、形態的には同一となっている。2 項対立の場合、命令と非命令という 2 つのカテゴリーの間で形態交替を見せる例は認められず、命令形がその他のどの形態と合流するかが分類の基準となっている。

3 項対立の例においては、未来、現在、過去/命令の間で形態に異なりが認められるタイプが多い。独立した命令形をもつ非過去、過去、命令のの間で形態に異なりが認められるタ

イブは補充法による語幹交替が起きている。4 項の対立を形成するのは 1 例のみが認められる。共時的には例外といえるタイプである。

4.2 音交替の類型

3 節の例を見ていくと、各形態変化に認められる音交替には一定の関係が認められるといえる。

まず、初頭子音に認められる交替について見ると、前鼻音つき有声音と前気音つき無声無気音が交替する例が最も多くみられる。しかも、非過去（未来/現在）が前鼻音つき有声音となっている例が多い。

次に、母音に認められる交替について見ると、非過去が短母音で過去/命令が長母音となっているものが最も基本的な交替のタイプと言える。語幹に 3 項の対立が認められる例の場合、現在形が短母音である点も注目できる。音質について見ると、次のようなペアが多く認められる：/ə - i:/, /u - i:/, /o - e:/, /a - ε:/。これらは共時的な音交替の規則として考えることができるように見えるが、必ずしもどの交替を見せるかは個別の事例を見なければならない。

5 まとめ

本稿では'Oggangdrug 方言における動詞語幹の形態変化を概観し、タイプ別に分類した。この方言には少なくない動詞語幹が形態変化を起こしている。量的に見れば、非過去と過去/命令の間に認められる対立が最も多いことが分かった。形態変化については、母音交替を伴うものが多く、次いで初頭子音の交替が認められる。

本稿では蔵文との対応関係を明らかにする作業を省略した。今後の研究としておきたい。

参考文献

- 鈴木博之 (2005) 「チベット語音節構造の研究」『アジア・アフリカ言語文化研究』第 69 号 1-23
- (2015) 「甘南州卓尼・迭部・舟曲 3 県のチベット系諸言語とその下位分類試論」『ニダバ』第 44 号 1-9
- rNam-rgyal Tshe-brtan (2008) *Co-ne'i bod-skad-la dpyad-pa*. (《藏語卓尼話研究》) 中央民族大学碩士論文
- 華侃 主編 (2002) 《藏語安多方言詞匯》甘肅民族出版社